

エコチル調査について

エコチル調査とは、2010年から環境省が始めた長期にわたる調査研究です。具体的には、赤ちゃんがお母さんのお腹にいるときから13歳に至るまでの期間、健康状態に関して定期的な聞き取り調査をしていきます。日本全国では、こども達とその保護者約10万組に参加して頂くほどの大規模なものであり、旭川医科大学ではそのうちの2000組を割り当てられております。また、この調査に協力すると、WAON加盟店で使用できるポイントなどが謝礼としてもらえます。

旭川医科大学では、調査に協力して頂く対象者（親子）に対して、年2～3回のレクレーションを行なっていました。今年度はサイエンスフェスティバルに参加して頂く企画を新たに取入れることになりました。その第1回目のサイエンスフェスティバルが、11月25日に実施された「エコチルサイエンス in 旭川医科大学」です。今回は、エコチル調査の対象者の小学校6年生、その兄弟姉妹、さらには、保護者を含めた合計38名に、全てのコースでの体験学習をして頂きました。

環境省は、子供達の健康に影響をもたらす環境要因（例えば、お母さんの妊娠中の喫煙、飲酒、メンタルヘルス状況と子供への影響とか乳幼児の食物アレルギーと摂取食物の関係、電磁波を発生する機器類の使用など沢山の項目について）を聞き取り調査し、それらの中から子供達に悪影響を与える環境因子を解明していくことを目指しています。その上でリスク管理体制を構築して、次世代育成にかかる健やかな環境の実現をはかります。さらに、その調査の中で得られたデータを化学物質規制の基準や土壌や水質等の環境基準などの改定などに活かしていくことも含まれているようです。

ノルウェーやデンマークなどの北欧では、このような調査が先進的になされており、エコチル調査の国際シンポジウムも開催されてきました。「**子供が健康に育つ環境を実現することが極めて重要な意味がある**」という考えが、次第に世界各国に広がりを見せています。

参考：<https://www.env.go.jp/chemi/ceh/>